

Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 リリースノート

初版：2023年2月14日

最終更新：2023年5月19日

このドキュメントでは、Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 の新機能および変更された機能の概要と、既知の問題に関する情報へのアクセス方法について説明します。



(注) 最新の Cisco Prime Network Registrar ドキュメンテーション（これらのリリースノートを含む）には、次の Web サイトからアクセスできます。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/cloud-systems-management/prime-network-registrar/tsd-products-support-series-home.html>

このマニュアルの構成は、次のとおりです。

- [はじめに](#) (1 ページ)
- [はじめる前に](#) (2 ページ)
- [ライセンスング](#) (3 ページ)
- [相互運用性](#) (4 ページ)
- [Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 の新機能](#) (4 ページ)
- [Cisco Prime Network Registrar のバグ](#) (5 ページ)
- [関連資料](#) (7 ページ)
- [Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 のアクセシビリティ機能](#) (7 ページ)

はじめに

Cisco Prime Network Registrar は、次のコンポーネントで構成されています。

- 権威あるドメイン ネーム システム (DNS) プロトコル サービス
- DNS キャッシュ サービス
- Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) サービス

シスコでは、これらのコンポーネントを個別にライセンスされたアプリケーションとして、またはスイートの組み合わせで提供しています。

はじめる前に

Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 をインストールする前に、システム要件と Cisco Prime Network Registrar 11.1 Installation Guide で入手可能なライセンス情報を確認してください。



- (注) Cisco Prime Network Registrar の以前のバージョンから Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 に移行する場合は、その前後にリリースされたバージョンのリリースノートを確認し、すべての変更点について完全に理解する必要があります。

Cisco Prime Network Registrar DHCP、権威 DNS、およびキャッシュ DNS のコンポーネントは、Cisco Prime Network Registrar のリージョンサーバーからライセンスおよび管理されます。ローカルクラスタ内のすべてのサービスは、リージョンクラスタを介してライセンスされます。リージョンでのインストールにのみライセンスが必要で、リージョンサーバーのみが新しいライセンスを受け入れます。次に、リージョンサーバーは、使用可能なライセンスに基づいて個々のローカルクラスタを承認できます。



- (注) Cisco Prime Network Registrar 10.x 以前のライセンスは、Cisco Prime Network Registrar 11.x では無効です。Cisco Prime Network Registrar 11.x 用の新しいライセンスが必要です。11.x のリージョンに 10.x の CDNS クラスタが含まれている場合は、10.x の CDNS ライセンスをリージョンサーバーに追加する必要があります (10.x の CDNS クラスタが 10.x のライセンスを使用し、11.x の CDNS クラスタが 11.x のライセンスを使用します)。



- 警告** リージョンを 11.x にアップグレードする前に、Cisco Prime Network Registrar 10.x ローカルクラスタを 10.1.1 以降にアップグレードする必要があります。ローカルクラスタを 11.0 (またはそれ以降) に直接アップグレードしないでください。11.0 (またはそれ以降) にアップグレードするまで、リージョンに登録できません。



- (注) デフォルトでは、スマートライセンスは Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 で有効になっています。Cisco Prime Network Registrar 11.x のリージョンは、スマートライセンスモードで動作し、11.0 より前のローカルクラスタをサポートしません。詳細については、『Cisco Prime Network Registrar 11.1 Installation Guide』の「Using Smart Licensing」のセクション [英語] を参照してください。

ライセンスの詳細については、『Cisco Prime Network Registrar 11.1 Installation Guide』の「License Files」のセクション [英語] を参照してください。

Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 キットには、次のファイルとディレクトリが含まれています。

- Linux : RHEL/CentOS 7.3 以降、および RHEL 8.x/AlmaLinux 8.6 用の Cisco Prime Network Registrar RPM アプリケーション
- ドキュメント : ポインタ カード、バグ、および拡張リスト
- コンテナ : Red Hat UBI 8.6 の Docker コンテナ
- Kubernetes : Kubernetes に Cisco Prime Network Registrar コンテナを展開するためのサンプル YAML ファイル

Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 は仮想アプライアンスとして出荷されることもあります。これには、AlmaLinux 8.6 オペレーティングシステムとともに、Cisco Prime Network Registrar で使用可能なすべての機能が含まれています。Cisco Prime Network Registrar 仮想アプライアンスは、VMware ESXi 7.x プラットフォームおよび OpenStack でサポートされます。詳細については、『Cisco Prime Network Registrar 11.1 Installation Guide』の「Cisco Prime Network Registrar Virtual Appliance」セクション [英語] を参照してください。



- (注) Cisco Prime Network Registrar のオプションのビルド済み VM ダウンロードでパッケージ化された Linux ディストリビューションはオープンソースソフトウェアであり、シスコは所有またはサポートしていません。Linux のサポートが必要なお客様は、サードパーティのソフトウェアプロバイダーにご連絡いただく必要があります。

ライセンス

Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 は、スマートライセンスと従来のライセンスの両方をサポートしています。ただし、ハイブリッドモデルはサポートされていません。つまり、一度に使用できるのは、どちらか 1 つのライセンスタイプのみです。シスコライセンスの詳細については、cisco.com/go/licensingguide [英語] を参照してください。

Cisco Prime Network Registrar 11.x には、永久ライセンスと SIA ライセンスの 2 つのライセンスがあります。SIA ライセンスでは、将来のリリースへのアップグレードが可能です。Cisco Prime Network Registrar 10.x からの SIA、または Cisco Prime Network Registrar 9.x からの期限切れになっていない SWSS 契約を使用している場合は、これらの資格のいずれかが期限切れになるまでアップグレードが可能です。PAK ベースのライセンスの場合、PAK を Cisco Prime Network Registrar のリージョンサーバーにインストールする必要があります。スマートライセンスの場合、ライセンスはスマートアカウントに配信されます。Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 でスマートライセンスはデフォルトで有効になっていますが、インストール後にオーバーライドできます。Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 の場合、ライセンスは必要なサービスに従って実行されます。詳細については、『Cisco Prime Network Registrar 11.1 Installation Guide』の「License Files」のセクション [英語] を参照してください。



- (注) ファイルからロードされた個々のライセンスを削除することはできません。必要に応じて、アップグレード後に古いバージョンの DNS および DHCP ライセンスを削除することができます。サーバがアップグレードされていない場合は、古いバージョンの CDNS ライセンスを保持する必要があります。

相互運用性

Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 個々のコンポーネント ライセンスを使用します。これにより、ユーザは DHCP サービス、権威 DNS サービス、および DNS サービスのキャッシュを個別に、またはスイートとして購入し、インストールできます。

DNS キャッシュはサーバーベースのライセンスであるため、追加の DNS キャッシュライセンスが必要な場合は、サーバー数に基づいて注文する必要があります。

DHCP、DNS、および DNS キャッシュのライセンスをインストールして管理するには、リージョンサーバーを展開する必要があります。リージョンサーバーは特にこれらのコンポーネントのライセンスをインストール、カウント、および管理するために使用されます。

バージョン 11.1 とそれ以前のバージョンのローカルクラスタ間の同期は、11.1 リージョンクラスタで行う必要があります。Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 プロトコルサーバーはバージョン 9.0 以降で相互運用できます。

Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 の新機能

11.1.1 より前の 11.x リリースでは、Cisco Prime Network Registrar はデフォルトディレクトリにのみインストールできます。インストールファイルは `/opt/nwreg2` ディレクトリに、データ、ログ、および構成は `/var/nwreg2` ディレクトリにインストールされます。これらのデフォルトパスにインストールすることを強くお勧めしますが、`rpm --relocate` オプションを使用してデフォルト以外のディレクトリにもインストールできるように、インストーラが変更されています。

この機能強化により、次のコマンドをデフォルト以外のインストールに使用できます。

- デフォルトのインストール : `rpm -ivh cpnr-local-11.1.1-1.el8.x86_64.rpm`
- カスタムのインストールパス : `rpm -ivh --relocate /opt/nwreg2/local=/home/cpnrLocal cpnr-local-11.1.1-1.el8.x86_64.rpm`
- カスタムのデータパス : `rpm -ivh --relocate /var/nwreg2/local=/home/cpnrData cpnr-local-11.1.1-1.el8.x86_64.rpm`
- カスタムのインストールパスとデータパス : `rpm -ivh --relocate /opt/nwreg2/local=/home/cpnrLocal --relocate /var/nwreg2/local=/home/cpnrData cpnr-local-11.1.1-1.el8.x86_64.rpm`

Cisco Prime Network Registrar のバグ

特定のバグの詳細について、または Cisco Prime Network Registrar の特定のリリースのすべてのバグを検索する方法については、[バグ検索ツールの使用 \(6 ページ\)](#) を参照してください。

ここでは、次の内容について説明します。

- [解決済みのバグ \(5 ページ\)](#)
- [拡張機能 \(6 ページ\)](#)
- [バグ検索ツールの使用 \(6 ページ\)](#)

解決済みのバグ

次の表に、Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 リリースで解決されたバグを示します。

表 1: Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 で解決済みのバグ

不具合 ID	説明
CSCwd18073	DNSSEC と DNS64 の両方が有効になっている場合、有効な応答に対して CDNS セキュリティイベントがトリガーされる
CSCwe00494	制限 ID が構成されている場合、フェールオーバー同期中に DHCP サーバーが再起動する
CSCwd01958	サーバーエージェントの再起動後に DHCP サーバーの起動に失敗することがある
CSCwd02855	dhcp-admin ロールと所有者/リージョンの制約を持つユーザーがスコープを表示できない
CSCwd17426	スマートライセンスが無効になっている場合、CCM サーバーがデッドロックすることがある
CSCwd51143	RADIUS サーバー構成のローカルクラスタに誤った key-secret がプッシュされる
CSCwd72640	オブジェクト名に特殊文字が含まれている POST リクエストに対して REST API がステータスコード 400 を返す
CSCwd82738	ワイルドカードに一致するクエリについて DNS でメモリリークが発生する可能性がある

このリリースのバグの完全なリストについては、製品ダウンロードサイトで入手可能な [cpnr_11_1_1_buglist.pdf](#) ファイルを参照してください。お客様が報告した問題の修正については、特にこのリストを参照してください。

拡張機能

次の表に、Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 リリースで追加された主な拡張機能を示します。

表 2: Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 で追加された拡張機能

不具合 ID	説明
CSCwd51399	デフォルト以外のパスへの CPNR のインストールをサポート

このリリースで追加された拡張機能の完全なリストについては、製品ダウンロードサイトで入手可能な [cpnr_11_1_1_enhancements.pdf](#) ファイルを参照してください。

バグ検索ツールの使用

リリースの特定のバグまたはすべてのバグを検索するには、バグ検索ツールを使用します。

手順

ステップ 1 <http://tools.cisco.com/bugsearch> にアクセスします。

ステップ 2 [ログイン (Log In)] 画面で、登録済みの Cisco.com ユーザ名およびパスワードを入力し、[ログイン (Log In)] をクリックします。[バグ検索 (Bug Search)] ページが開きます。

(注) Cisco.com のユーザ名とパスワードを持っていない場合、<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do> で登録できます。

ステップ 3 特定のバグを検索するには、[検索対象 (Search For)] フィールドにバグ ID を入力し、**Return** キーを押します。

ステップ 4 最新リリースのバグを検索するには、[バグを検索 (Search Bugs)] タブをクリックし、次の基準を指定します。

- [検索対象 (Search For)] フィールドに、**Cisco Prime Network Registrar 11.1.1** と入力し、**Return** キーを押します (その他のフィールドは空のままにします)。
- 検索結果が表示されたら、フィルタツールを使用して検索するバグの種類を特定します。ステータス、重大度、変更日付などでバグを検索できます。



(注) 結果をスプレッドシートにエクスポートするには、[スプレッドシートにすべてをエクスポート (Export All to Spreadsheet)] リンクをクリックします。

関連資料

Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 ガイドのリストについては、『[Cisco Prime Network Registrar Documentation Overview](#)』 [英語] を参照してください。

Cisco Prime Network Registrar 11.1.1 のアクセシビリティ機能

すべての製品マニュアルは、イメージ、グラフィック、および一部のチャートを除き、アクセシブルになっています。音声、点字、または大きな文字の製品マニュアルが必要な場合は、accessibility@cisco.com にお問い合わせください。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用、サービス リクエストの送信、追加情報の収集の詳細については、『[What's New in Cisco Product Documentation](#)』 [英語] を参照してください。

新しく作成された、または改訂されたシスコのテクニカルコンテンツをお手元で直接受信するには、『[What's New in Cisco Product Documentation](#)』 [英語] のRSS フィードをご購読ください。RSS フィードは無料のサービスです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

© 2023 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。